

復活節第6主日礼拝 説教要旨(5月10日)

『神と人との仲介者』 早川 真牧師

テモテへの手紙一 2:1-6

神は唯一である、それはユダヤ人たちにとって当然のことでした。しかし神と人との仲介者に関しては、ユダヤ人はモーセをはじめとする預言者を神と人との仲介者としました。また旧約の時代から新約の時代にかけて、預言者が出てこない時代には天使が仲介者となるという信仰も生まれていました。しかしここでパウロは、神と人を仲介するのはただ一人、イエス・キリストだけであるということをはっきりと語っています。

聖書において、預言者や天使は民に神からの言葉を伝えることはあっても、民が神と直接神と話すことは赦されませんでした。それほどに私たちの罪は重く、神の目に近づくことさえできないものなのです。しかしイエス・キリストは私たちが直接神のもとに行くことができるようにしてくださった方です。私たちが神に祈りをささげるということは、このただ一人の神と人との仲介者、イエス・キリストを通してはじめて可能となったことでした。

神と人の仲介者はイエス・キリストただお一人です。そしてキリストは今も天で、全ての人のために父に執り成し祈ってくださっています。そして私たちもまた、イエス・キリストと共に全ての人の救いを神に執り成し祈ることを求められています。そのためにイエス・キリストはご自身をささげ私たちが神に近づくことができるようにしてくださいました。

今朝私たちも共に祈りを合わせたいと思います。各国の為政者のために、身の周りの人々のために、教会の兄弟姉妹のために、教会の指導者のために、全ての人のために、神の願いである、全ての人が救われて真理を知るようになることを、ただ一人の神と人との仲介者、イエス・キリストと共に祈り求めてまいりましょう。